

# ニンギョウトビケラ

*Goera japonica*

エグリトビケラ科

## 名前の由来

幼虫が作る筒巢の形を「人形」に見立てたことから。トビケラの由来は不明。漢字名：人形飛蝨



ニンギョウトビケラの幼虫(左)と巢(右)

(幼虫写真撮影：宮下 力)

## 形態的特徴

**幼虫の特徴：**体長約10～13mm。頭部は黄褐色で斑点が多数ある。巢の両側に3～4対の翼石を付ける。

**成虫の特徴：**体長約6～7mm、翅開張約15～17mm。触角の基部1節は他の節より明らかに長くて太い。翅、体ともに黄褐色。

**類似種と見分け方：**コエグリトビケラ。

コエグリトビケラは巢に翼石を付けず、また後胸に一列の刺毛がある。



ニンギョウトビケラの巢(上)



ニンギョウトビケラの成虫

(成虫写真撮影：宮下 力)

## 生息環境・分布

河川上流域から下流域の流れの緩やかな場所。湖の沿岸にも見られる。

**分布：**国外分布は、ロシア極東地域、シベリア、朝鮮半島。

国内分布は、北海道～九州。

北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。

## 食性・他の生物との関わり

礫表面の付着藻類を摂食する。

筒巢のおかげで魚類には食べられにくい。

蛹・前蛹にミズバチが寄生することがある。

## 繁殖生態・寿命

飛翔しながら交尾を行い、卵が成熟するとメスは翅の下に空気を蓄え、瀬の石の窪みなどに潜水産卵する。春から秋にかけて成虫が見られる

## 興味深い話

■山口県岩国市では江戸時代から、本種の筒巢を「人形石」と呼び郷土玩具として親しまれている。

■蛹・前蛹にミズバチが寄生することがある。

■十勝地方のアイヌ語ではトビケラ類幼虫を「ウォルンカムイ」という。

## 配慮事項

筒巢の材料となる小石と餌場となる大き目の礫の存在が重要である。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
卵期・幼虫期	■									■			
成虫期						■							

## 参考文献

「アングラーのための水生昆虫フィールドノート」宮下力 出版文化社 2000

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(ワシ・タカ) 鳥類  
草原・樹林